

かわくぼ 川久保遺跡調査の概要 縄文中期・後期の集落跡

(南魚沼郡湯沢町神立字川久保)

今回の発掘調査は国道17号(湯沢インター付近)の拡幅工事に伴うもので、昨年度から引き続いて調査を行いました。調査面積は2,000㎡と狭いのですが、石器や土器などの遺物は、浅箱にして370箱余りにもなりました。炉跡も前々号(32号)で紹介した敷石を伴った複式炉や円形の炉跡(写真右)、石囲炉など合わせて17基を検出しました。これらは竪穴住居や掘立柱建物などの住居跡に伴うものと考えられます。

包含層は厚いところで80cmにもなりますが、全体に遺物が多く包含されており、調査中は一面に土器が出土し、足の踏み場もない程でした。このことから、川久保の地では、縄文中期から後期の約1,500年間にわたり、縄文の人々が連綿と住み続けていたことが分かりました。

土器は、完形品や復元可能なものが多数ありました。写真はそのうち縄文中期中葉の土器を復元したもので、躍動感溢れる造形が特徴です。前列は粘土紐で造形した土器で、右は火焰型土器、中央は王冠型土器と言います。左は信濃川流域によく見られる土器で、綾杉文と剣先文が特徴です。(鈴木秀人)



円形の炉跡



川久保遺跡の縄文時代中期の土器

しょうじゃく

正尺A遺跡調査の概要（豊栄市葛塚字子辰高入）

正尺A遺跡は、旧大口川によって形成された自然堤防（微高地）上に立地し、調査の結果、古墳時代前期（今から約1,700年前）の一辺約5mの竪穴住居跡1棟、土器を廃棄した穴1基のほか、様々な形の土器が多数出土しました。

今回発掘調査した範囲は集落跡の端の部分にあたると思われ、遺跡は周辺に広がっている可能性があります。

遺跡の立地する自然堤防上には、今年度調査が行われた正尺C遺跡を始め、古墳時代前期の一連の遺跡が存在しており、同時期の遺跡密集地帯であるといえます。

土壌の科学分析から、遺跡周辺はクマザサに覆われた比較的乾燥した環境にあり、周囲より少し小高く安定した土地を選んで人々が暮らしていたことがわかりました。

現在までのところ、阿賀野川以北の地域において古墳時代前期の土器資料は少なく、その意味で貴重な発見であるといえます。

また、遺跡では、平安時代中頃（9世紀後半）・江戸時代後期（18世紀後半）の遺物も見つかっており、この地域での土地利用の移り変わりを知る手がかりを与えてくれます。（尾崎高宏）



竪穴住居跡



古墳時代前期の土器

新資料展のご案内

埋蔵文化財センター1階の展示コーナーでは、平成13年2月17日から平成14年3月中旬までの予定で、平成12年度の発掘調査成果を皆さんにご紹介する「新資料展」を開催しています。

低湿地の調査で縄文時代晩期の丸木舟や櫂、草葺きの壁などが発見された青田遺跡（加治川村）、縄文時代中期の敷石住居や火焰型土器が発見された川久保遺跡（湯沢町）、古墳時代前期の方墳から青銅製の鏡が出土した奈良崎遺跡（和島村）、古墳時代前期の土器が多数出土した正尺A・C遺跡（豊栄市）、「駅家村」と記された木簡の発見で古代北陸道の「三嶋駅」との関わりが指摘された箕輪遺跡（柏崎市）、奈良・平安時代の「川の港」である蔵ノ坪遺跡（中条町）、以上7遺跡の最新の出土品・写真を展示しておりますので、是非この機会にご覧下さい。



新資料展示コーナー

平成12年度の発掘調査一覧 <新潟県埋蔵文化財調査事業団関連>

二次調査

事業	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積		遺跡の内容		備考	
				対象(m ²)	調査(m ²)	時代	遺構・遺物		
日本 道路 公団	日本海沿岸東北自動車道	正尺 A	豊栄市	5/22-10/20	3,800	3,800	古墳時代(前期) 平安時代	・古墳時代 竪穴住居・土坑/土師器 ・平安時代 土師器・須恵器 ・江戸時代 陶磁器	13年度へ継続・完了予定
		正尺 C	豊栄市	4/3-10/27	9,220	9,220	古墳時代(前期)	・古墳時代 竪穴住居・掘立柱建物・ 土坑・溝・ビット/ 土師器(朱塗高杯、器台、甕)	11年度からの継続調査 完了
		青 田	加治川村	5/25-12/9	4,080	4,080	縄文時代(晩期)	・縄文時代 掘立柱建物(柱根残存)・ 土坑・河川跡・ビット・杭列/ 縄文土器・石器・ 網代・籠・櫂・弓・柱根・ 木槌・櫛・丸木舟・ 樹皮製容器・柝・栗・クルミ	11年度からの継続調査 13年度へ継続・完了予定
小 計				17,100	17,100				
建 設 省	8号柏崎BP	箕輪	柏崎市	4/10-9/5	3,000	3,000	弥生時代(中期) 平安時代	・弥生時代 掘立柱建物・土坑・溝/ 弥生土器・石器 ・平安時代 溝/土師器・須恵器・木製品	8年度からの継続調査 完了
		天満	柏崎市	9/6-9/20	480	480	縄文時代(前期)	・縄文時代 縄文土器・石器	完了
	湯沢交差点17号	川久保	湯沢町	4/12-12/10	2,000	2,000	縄文時代 (中期・後期)	・縄文時代 敷石住居・竪穴住居・ 掘立柱建物・土坑・集石遺構・ 埋蔵/ 縄文土器・石器・土偶	完了
	中条BP7号黒川	蔵ノ坪	中条町	4/10-11/22	5,690	5,690	平安時代	・平安時代 掘立柱建物・道路・河川跡・ 土坑・ビット/ 荷札木簡・習書木簡・墨書土器・ 土師器・須恵器・土錘・砥石・ 銅製帯金具・木製品	13年度へ継続・完了予定
小 計				11,170	11,170				
総 計				28,270	28,270				

一次調査

事業	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積		時代および二次調査対象面積		備考	
				対象(m ²)	実績(m ²)	時代	二次調査対象面積(m ²)		
日本 道路 公団	東北自動車道 日本海沿岸	推定地11	豊栄市	4/14-4/21 5/15-5/17	7,200	450	古墳	5,420	正尺 A 遺跡
		推定地 8	中条町	10/23-11/10	19,000	470			二次調査不要
		推定地 9	中条町	10/23-11/10	35,000	870	平安・中世		二次調査不要
		推定地 6	中条町		3,210	155			全域の調査未了
		道端遺跡	荒川町	10/23-11/10	20,340	710	縄文・弥生		全域の調査未了
		福田遺跡	中条町		11,750	610			全域の調査未了
小 計				96,500	3,265				
建 設 省	柏崎BP	箕輪	柏崎市	8/21-8/23	810	55	古代(集落)		二次調査不要
	糸魚川東BP	推定地 5	糸魚川市	6/5-6/14	23,500	410	中世(集落)	5,350	二次調査必要 岩倉遺跡
小 計				24,310	465				
鉄建 公団	北陸 新幹線	南中島遺跡	板倉町	10/3-10/11	6,700	356			二次調査不要
		寺地地内	青海町	11/13-11/21	6,200	93	縄文・中世	3,100	二次調査必要 寺地遺跡
小 計				12,900	449				
総 計				133,710	4,179				

埋文コラム 『縄文人の食材 木の実を中心として』

貝塚から分かること

縄文時代の食材や食事を考えるときに最も参考になるのは、当時の人々が生活を営む際に出したゴミが堆積してできた貝塚です。貝塚はいわば現代のゴミ捨て場に相当するものです。現代の生ゴミの多くを残飯が占めるのに対し、当時の生ゴミは、そのほとんどが食物の処理過程で生じたものであろうと推測されています。滋賀県の粟津湖底遺跡の第3貝塚からは、主に次のような食材が確認されています。

貝類...ほとんどがセタシジミでカラスガイなどの大形の貝類やタニシ類はわずか。

魚類...フナ、コイ、ナマズなどが多く、フナ、コイ以外のコイ科魚類やアユは少ない。

獣類...イノシシとニホンシカが最も多く、タヌキ、ノウサギ、ニホンザル、オオカミ、ツキノワグマ、カモシカ、カワウソなども出土しているが、その量は少ない。

植物の実...トチの実、ドングリ類、ヒシの実が多く、オニグルミの出土は少ない。

第3貝塚から出土した食ベカスなどをカロリー計算した結果、粟津湖底遺跡周辺では木の実、特にトチの実が摂取カロリーの4割以上を占め、大きなカロリー源となっていた様子が分かりました。

四季折々の食材

縄文時代の食材に関しては、地域の違いや遺跡の立地によって食料とした種類に多少違いが見られます。いかにしてその地域の自然の恵みを効率よく取り入れるかといった生活の工夫は、日本列島全体に共通していました。仙台湾の里浜貝塚を例にとると、発掘調査によって、縄文人たちの食料獲得のピークが春と秋にあり、はざかいき端境期の盛夏と冬は保存食料を活用していた様子が明らかになってきました。また、動物性・植物性を含め、食材の種類が大変豊富であったことも、貝塚からの出土遺物によって窺えます。

このように、季節ごとの自然の恵みと加工・保存技術の工夫によって、縄文人の食生活は現代人が考える以上に豊かであったことが分かってきました。具体的には、縄文人の骨や歯に栄養障害が認められる例はほとんどなく、逆に、歯にはデンプン質の付着による虫歯が多く見つかっています。また、乳幼児の死亡率の高さと平均三十余歳という短い寿命が相まって、自然と人口増加が抑えられたと考えられます。



重要なカロリー源のトチの実

木の実の食べ方

縄文人の食材の中でも特に重要であったのが、各種の木の実です。主な木の実には、そのまま生食できるクリやクルミ、アクがあって水さらしが必要なアラカシやアカガシ、水さらしと土器による加熱処理を要するミズナラ類、灰汁を用いて水さらしと加熱処理が必要なトチの実などがあります。これらの木の実は、通常は地下に掘った貯蔵穴に保存されましたが、長期間保存する場合は、カゴに入れて竪穴住居の炉の上の棚などに置かれていたようです。

具体的な食べ方としては、トチの実の場合、まず水に浸して虫殺しをした上で乾燥させ保存します。食べる

ときは水でふやかし、右の写真のような石皿などに載せ、敲石で突き砕いた後、磨石を使って粉にします。最後に灰汁と混ぜ、水場でさらしてアクを抜くと、ようやく食べられる状態になります。こうしてできた木の实の粉は、ヤマノイモなどをつなぎにしてこね、現在の「オヤキ」のような形にして食べたのではないかと考えられます。木の实の粉をパン状、クッキー状にした加工品の炭化物は、東日本の遺跡を中心に相当数が発見されているため、東日本ではかなり一般的な食べ方だったようです。また、焼く以外にも、団子状にしてゆでたり、スープの中で煮込んだりする食べ方もあったと考えられます。



石皿と磨石

木の实が出土した県内の遺跡

沖ノ原遺跡（津南町）... 縄文時代の代表的な遺跡の一つで、植物性の遺物が出土したということもあり、県内でも早くから注目された遺跡です。クリが約1.2kgと最も多く出土しており、クリ以外では、クルミ、ドングリ、トチの実などが検出されています。また、木の实を加工したクッキー状炭化物が出土している点でも貴重な遺跡といえます。

中道遺跡（長岡市）... 火災に遭ったと考えられる住居跡から500粒を超えるトチの実が出土しています。これらのトチの実は、カゴに入れて棚の上で保存していたものが、火災に遭った時に飛び散らずに燃え落ちたものと考えられています。

大武遺跡（和島村）... 写真で示したように、谷の斜面にある直径、深さとも約30cmの貯蔵穴の中にクルミの実だけが密に詰まった状態で出土しました。クルミの実だけが詰まった貯蔵穴は、全国的に見ても珍しく、貴重な事例といえます。

青田遺跡（加治川村）... 現在も調査中の遺跡ですが、発掘された川岸からは、トチやクリの皮が大量に出土しています。これらは、実を取り出す作業を集中的に行った後に捨てられたものと考えられます。クリの中には、横幅が4～5cmもあり、現代の栽培種の大きさに匹敵するものが多数含まれています。クリは柱などの建築材にも多用されていることから、クリを重視した縄文人の生活を窺うことができます。



大武遺跡のクルミ貯蔵穴



青田遺跡で出土したクリの皮

引用・参考文献

- 『縄文カタログ くらしと道具』（財）滋賀県文化財保護協会 1997
- 『縄文の生活誌 旧石器時代～縄文時代』岡村道雄著 講談社 2000
- 『沖ノ原遺跡発掘調査報告書』津南町教育委員会 1977
- 『中道遺跡 第2次発掘調査概報』長岡市教育委員会 1996

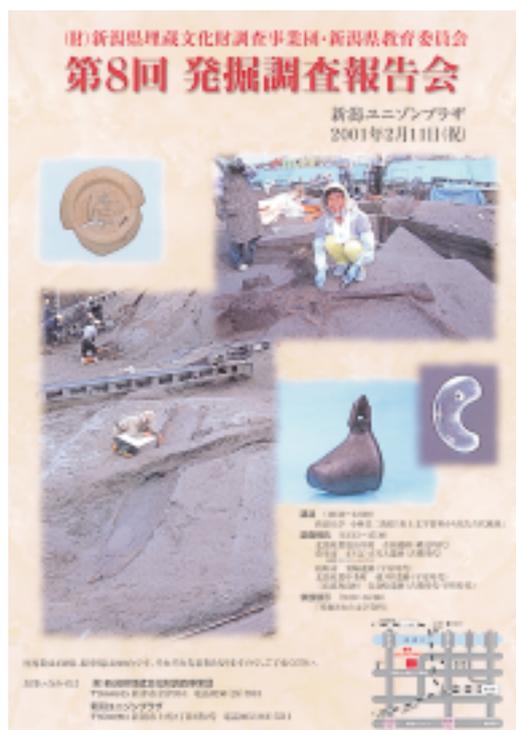
第8回発掘調査報告会の概要

去る2月11日(日)に、新潟ユニゾンプラザを会場に、第8回発掘調査報告会が開催され、329名の参加がありました。今年は午前の部で、新潟大学教授の小林昌二先生による「出土文字資料から見た古代越後」という演題での講演会を実施し、午後からはスライドなどを活用し、6遺跡についての報告を行いました。講演会、報告会とも、質問時間には活発な質疑応答が交わされ、参加された方々の関心の高さが窺われました。また、遺物展示会場では、報告した6遺跡の主な遺物と共に「発掘された文字資料」のテーマで併設展示も行われ、終日盛況でした。

当日のアンケートで寄せられた数々の意見や要望を参考に、更に充実した報告会になるよう工夫を加えていきたいと考えています。来年度の報告会の詳細については、今年度と同様、様々な広報手段を通して皆様にお伝えしていきますので、多くの方々の参加をお待ちしています。



遺物展示会場の様子



報告会のポスター

遺跡カードCD-ROMの発行

文化財行政事務のために

事業団は新潟県教育委員会と共同して、県内全遺跡の情報を検索できるCD-ROMを、希望する市町村教育委員会と上中下越の各教育事務所に配付します。(一般には配付しません。)内容は、県教育委員会が管理する「新潟県埋蔵文化財包蔵地調査カード」の文字情報であり、事業団が平成10年度から入力作業を行ってきたものです。

このCDは遺跡名・所在地・時代時期の検索ができるので、各市町村の時代別の遺跡数などをが瞬時に調べることが可能です。また、遺跡名も漢字1文字で検索ができ、正確な名称を覚えていない遺跡も確認することができます。インターネットのブラウザ(Internet explorerやNetscape navigator)を使用する仕組みで、OSがWindows(Windows3.1は除く)のパーソナルコンピュータで使用できます。



新潟県遺跡カードCD-ROM

新刊報告書の紹介（平成12年度刊行分）

書名	堀越館跡（ほりこしやかたあと）				
副書名	一般国道49号堀越歩道関係発掘調査報告書				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
堀越館跡	城館跡	中世	堀・溝・土坑・柱穴	白磁・青磁・中国陶磁器 天目・瀬戸・美濃・珠洲 越前・信楽茶臼・壺・硯	廃棄土坑から15世紀前半代の一括遺物が出土

書名	川根谷内墓所遺跡（かわねやちぼしよいせき）				
副書名	国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
川根谷内墓所遺跡	遺物包蔵地	平安時代 近世	井戸・土坑・溝状遺構	須恵器・土師器・石製品 近世陶磁器	

書名	大久保遺跡（おおくぼいせき）				
副書名	一般国道17号浦佐バイパス関係発掘調査報告書				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大久保遺跡	古墳	古墳時代後期	円墳5基	土師器・須恵器・管玉	
	遺物散布地	縄文時代		縄文土器・石器	

書名	梯子谷窯跡（はしごだにかまあと）				
副書名	一般国道116号出雲崎バイパス関係発掘調査報告書				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
梯子谷窯跡	生産遺跡 集落跡	飛鳥時代 奈良時代 平安時代 中世から近世 近代	須恵器窯 竪穴住居 掘立柱建物 炭窯 土師器焼成遺構	須恵器 土師器 土馬 砲弾	7世紀末の須恵器窯を検出

書名	木田遺跡（きだいせき）				
副書名	北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
木田遺跡	集落跡	平安時代 （11世紀前半）	掘立柱建物2・溝2 土坑1・井戸1他	土師器・須恵器	
	集落跡	中世 （12～16世紀）	掘立柱建物5・溝7 土坑11・井戸33 ピット多数他	土師器・珠洲・舶載磁器・白 瓷系陶器・古瀬戸・木製品・ 石製品・銭貨他	
	集落跡	近世 （17～19世紀）	掘立柱建物・溝16 土坑8・井戸24 ピット多数他	陶磁器（肥前・瀬戸美濃・越 中瀬戸他）・石製品・金属製 品・木製品他	

書名	新保遺跡（しんぼいせき）				
副書名	国営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新保遺跡	集落跡	平安時代 （9～10世紀）	掘立柱建物10棟 井戸・土坑 溝・古墓	須恵器・土師器・内面黒色土 器・灰釉陶器・緑釉陶器・漆 器・木製品・石製品・金属製 品他	木炭柳木棺墓の古 墓、数百個体の土器 が一括廃棄された溝
	集落跡	中世 （14～16世紀）	掘立柱建物1棟 井戸・土坑 溝・土壙墓	珠洲焼・中世土師器・青磁・ 白磁・瀬戸美濃焼・越前焼・ 漆器・木製品・石製品・陶製 品他	
	集落跡	近世 （17・18世紀）	掘立柱建物3棟 井戸・土坑・溝	肥前系陶磁器・瀬戸系陶磁 器・越中瀬戸焼・瓦器・木製 品・石製品	
	遺物散布地	縄文時代 弥生時代 古墳時代		土坑	縄文土器・石器・弥生土器・ 須恵器・古式土師器

県内の遺跡・遺物32

ね ち 根 知 城 跡 (昭和63年 県指定)

所在地：糸魚川市根小屋字城山ほか

糸魚川市根知谷地区には根小屋城・栗山城・上城山城の三つの山城が存在しており、この三城を総称して「根知城」と呼んでいます。城から眺めると、姫川が城の西側を、根知川が北側から東側を流れており、この両川はあたかも水を蓄えた堀のようにも見えます。根知谷は盆地であると同時に独立性をもった地区で、根知城はこの恵まれた自然条件を大規模に利用して築かれており、戦国時代の山城及び館城の特徴をよく留めています。三城の中で中心的な役割を果たしていた根小屋城は、標高320mに位置する戦国時代の典型的な尾根城です。本丸跡と殿屋敷と称する郭跡を中心に、郭跡17、削平地201、堀切16、豎堀15というように大規模な遺構を見事に残しています。

根知城の築城年代は明らかではありませんが、永禄11年（1568）以降の上杉謙信の書状に、同地の警備を厳重にせよという指令が、何度も出されています。根知谷は、信越国境の要の地であるだけに、謙信も根知城を整備し、強固なものにしたと考えられます。武田信玄に追われ、川中島の合戦の発端を作った信濃の武将村上義清は、謙信の信頼が厚く、永禄8年（1565）には根知城主に任じられました。村上義清の死後、城主は次々と代わりましたが、景勝の会津移封後、根知城に入った堀清重は、慶長4年（1599）の上杉遺民一揆の際に根知城を廃し、慶長6年（1601）には糸魚川市一の宮に清崎城を築いたと言われています。



姫川対岸（西）から眺めた根知城跡（写真提供 糸魚川市教育委員会）

埋文にいがたNo. 34

発行（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956 - 0845 新津市金津93番地 1 e-mail:maibun@coral.ocn.ne.jp

TEL (0250) 25 - 3981 FAX (0250) 25 - 3986

印刷（株）文久堂